

新しい統計表 センサストラクト

斎藤正雄

1——はじめに

近年わが国では、地域開発、社会開発、都市計画をはじめ、道路、交通、住宅、学校、上下水道、公害、公園緑地等の施策や民間企業の合理化、市場調査等の資料として、小地域別統計資料の重要性が認識されてきている。すでに1900年代の初期に、ニューヨーク、シカゴ、ポストン、ロスアンゼルスをはじめ、米国の諸都市においては、都市の区域よりも小さな区域単位の人口その他の資料をもとめるため、センサストラクトを設定し、現在10年ごとにおこなうセンサスをはじめ、毎年実施する各種センサスで、人口、世帯、事業所、労働力状態、産業、職業等の就業状態等をトラクトごとに集計し、その資料価値を高めている。

わが国でも、最近電算機の利用法の開発、技術の向上により、細密化による技術上の障害が

ぎつぎに解決され、困難とされていた小地域別統計資料も可能となり、本市でも、総理府統計局の指導と協力により、全国はじめての試みとして、昭和40年国勢調査の結果を小地域統計区<以下センサス・トラクトとよぶ>別に集計した。

以下センサス・トラクトの諸問題について若干ふれてみたい。

2——センサス・トラクトとはなにか

米国各州、各都市におけるセンサス・トラクトの設定は、その州および都市によってそれぞれ異なるが、標準的なトラクトはおおむね人口4,000人を有し、人口の属性、経済状態、生活状態が一様になるよう考慮して設定されたもので、都市またはその周辺を分割し、恒久的に画定した地理的な小地域であり、その境界は、地方委員会がセンサス局の承認をえて定めている。

3——横浜市のセンサス・トラクトの設定

本市のセンサス・トラクトは、本市全域を $1km^2$ のメッシュ<網目>に分画したもので、従来の行政区や、町、字域に関係なく

設定されたもので、米国のそれとは相違がある。しかし本市は首都圏内の都市であり、将来、国において企画される事業計画とも関連性をもたせるほか、重複、脱ろうをさけるため、建設省国土地理院作成の国土基本図の図葉の切りかたをもとに分割したものである。この基本図は日本の国土を便宜上13の座標系に区分しているが、本市のセンサストラクトはそのうち第IX系<関東地方>の座標系の原点<東経139度50分・北緯36度の交点>から東西・南北に各1kmにきざんだメッシュをもって本市全域をおおったものである。この一区画< $1km^2$ >をセンサス・トラクトとしたもので、国勢調査、各種統計調査のためのみに将来も恒久的に使用するものである。府県、市町村、行政区、自治会、町会、団体等の組織編成や改組のためのものではない。

4——センサス・トラクトによる統計の利用

一般的にトラクト統計の価値はつぎのとおりである。

1・地理的な比較が容易である

地域が多くのトラクトにわけられ、トラクト別の重要な統計資

料が利用できるとともに、各地の重要なちがいや特徴が容易に判断できる。2・3の例をあげると、老年層の多い区域と子供の多い区域<年齢別人口>の把握が容易である。さらに、専門的技術的職業従事者の住む地域と、管理的職業についている人の住む地域、学校、事業所、住宅その他あらゆる職業や産業の区別、人口の希薄、過密の程度等の判断は、いろいろな目的および計画のため必要なもので、これらの特性が多種多様に混在している問題の解決のためにも有用である。

2・時系列による比較

ある地域が、2つ以上のセンサスを通じてこのトラスト別による統計資料をみるとき、そのトラクト内の多くの変化をみることができる。たとえばその地域の人口は多くなったか、少なくなったか、またより富裕になったか、貧困になったか、住宅の不足あるいは腐朽破損の程度はどうか、さらに地域内の学校その他の施設はどうなっているかなどについての時間の経過にもなる変化の傾向を知るとは、その地域の現況を理解するとともに、将来、のぞましい方向に発展させる場合の意思決定に役立つものである。

3・ある目的に適した地域をみいだすための利用

企画立案者が、人口の増加地域減少地域、これらに関連した特定の地域を見つめたいとき、あるいは企業家が事業計画をたてるために、地域の発展性と製品販売の地域状態等の市場調査をするときに利用できる。また公衆衛生の関係者は、伝染病発生率の高い地域と低い地域に関心をもつが、この人達の調査活動にもこのトラクトの資料は役に立つ。

4・治安防災に関しての必要性

犯罪や災害は行政区画に関係なく発生する。警察や消防は、事故、犯罪、火災等の統計を発生地ごとに整理・分析し、予防と抑制の手段を講じているが、これらは地域の人口属性と近隣住宅状況との関連もあり、環境は正の手段としても利用できる。

5・国土開発、都市計画における活用

センサス・トラクトは、小地域の統計資料を必要とする部門だけでなく、国土開発、都市計画、産業立地、防災計画など国及び地方の大規模な施策にも広く活用される。高速鉄道、高速

道路、河川、運河、住宅、商工業、教育、レクリエーション施設等の土地利用に関するマスタープランの基礎となり、地域内のいくつかのセンサス・トラクトを組み合わせ、社会福祉、公共事業、サービス事業、不動産業、金融保険業等各方面に今後活用することができる。

5——統計資料の総合的活用 にむかって

トラクトを設定することは、種々の小地域についての研究成果を相互に関連させ、それをつぎつぎに積み重ねることができて資料の収集、利用の面で、実際的かつ有意義である。もちろん行政区、警察管区、学区、近隣住居区等の単位区が同一でないところでは、センサス・トラクトと一致させることはむずかしいが、これらの区域についてもきわめて有用であり、この資料がその他多種類の統計資料と総合活用されることによって、その効果が倍加されるものである。統計課では、人口、年令、労働力、産業、職業、世帯等をメッシュごとに組み合わせ集計した統計表を作成したので、行政各方面に広く活用されることを期待してやまない。

<総務局行政部統計課長>